

CAMPUS NEWS RIKKYO NIIZA

-特集1-

それぞれの居場所がある

卒業生ならではの視点で立教新座を発信

「卒業生による学校説明会」レポート

- Report -

2023年度 立教新座オープンキャンパス 開催概要

-特集2-

BE A GLOBAL LEADER

2023年度 海外研修

- INTERVIEW - 卒業生インタビュー

NHKのアナウンサーを経て研究員に。

調査研究を通して災害時の犠牲者ゼロへ

No.88

— November 2023 —



立教新座中学校・高等学校



特集

part 1

それぞれの居場所がある —————
卒業生ならではの視点で立教新座を発信

SCHOOL INTRODUCTION

PRESENTED BY GRADUATES

「卒業生による学校説明会」レポート

7月17日に開催された「オープンキャンパス2023」内で、「卒業生による学校説明会」が行われました。この説明会は、2限(11時～)、4限(13時～)、5限(14時～)の3回、パネル・ディスカッション形式で実施されました。登壇したのは、2012～2022年度に卒業した9人のOBと、社会科教諭である中間和洋先生です。会場にはたくさんの小・中学生と保護者の方が集まり、卒業生ならではの視点で語られる話に、熱心に耳を傾けていました。ここでは、4限に行われた説明会の様子を紹介します。



有意義な学校生活を送り、その経験を進路につなげる

今回の説明会は、参加者が客席に置かれた二次元コードから質問を送り、届いた内容を司会者が読み上げた後、卒業生たちがホワイトボードを使いながら答えるという方式で進行されました。登壇したのは卒業生7人で、司会はそのなかで最年長の石井洋充さんが担当しました。さらに、社会科の中間和洋教諭も参加。全員が簡単な自己紹介をした後、石井さんが「今日は学校について包み隠さず答えるつもりなので、どんな質問でも受け付けます」と話し、和やかな雰囲気ですタートしました。

最初の質問は、「立教新座を志望した理由や入学を決めた理由は何ですか」というもの。司会が質問を読み上げると、6人の卒業生が一斉に手元のホワイトボードに書き込みます。全員が書き終えてから内容をオープンすると、そこには「校舎が魅力的」「サッカーをやりたいから」「第一志望に落ちたから」「文化祭のノリが良かったから」など、さまざまな回答が出されました。

石井さんが「校舎が魅力的」という答えについてさらに尋ねると、そう回答した卒業生は「新校舎完成後にキャンパスツアーに参加したとき、そのきれいにひかれたから」と説明しました。一方で、新校舎建て替え前に入学した卒業生からは、「第一志望は違う学校だったが、人工芝のグラウンドがある今なら、立教新座を真っ先に選んだかもしれない」「公式大会にも使われるグラウンドで、体育の授業を受けられるのはうらやましい」という意見が出ました。

「第一志望ではなかった」という話を受けて、中間先生は「重要なのは志望順位より、入学後にいかに充実した学校生活を送り、大学以降の進路につなげられるかです。本校では、中高時代を有意義に過ごし、それを卒業後に生かしている生徒が多いと感じています」と語りました。その後も、「広い敷地内にスポーツ施設や実験室などの教室が豊富にあるため、体育部も文化部もそれぞれの活動場所が確保されていて活動時間がしっかり取れる」「高校は中学よりもクラブの数が増えるので、中学は野球、高校はジャズ研究会を選ぶなど、いろいろなことに挑戦できる」などと話が広がりました。

続いての質問は、「どんな先生が多いですか」というもの。立教大学法学部に在学中の中山昴さんは「専門性が高い」と回答。教員になることをめざし、立教新座で教育実習を経験したばかりの中山さんは、「自分が教える立場になったことで、先生方の知識の深さにあらためて驚きました」と言います。

教員の専門性がより際立つのが、高3で履修する「自由選択科目」の授業です。約90種類に及ぶ講座には幅広いテーマがそろい、みずからの興味や目的に合わせて選ぶことができます。そのほかにも、教員について「面倒見が良いが、一度は突き放し、自立を促してくれる」「距離感が近く、卒業生の近況も気にかけてくださっているようで驚いた」といったエピソードが紹介されました。

多彩な学校行事を通して、企画力や団結力の必要性を実感

次の質問は「いちばん楽しかったイベント」について。学友会（生徒会）の会長経験者である小川嶺さんは、「体育祭を一から立ち上げたこと。そのとき発案したクラス全員リレーは今も受け継がれていると聞き、うれしいかぎりです」と話します。小川さんは、大学時代にスキマバイトサービス「タイミー」の運営を行う株式会社タイミーを立ち上げましたが、立教新座で培った企画力が、今も生きていて感じるそうです。

また、石井さんと、その一学年下の伊藤太一さんも学友会の会長経験者です。伊藤さんが、楽しかったイベントについて「台風が直撃した年のS.P.F.（文化祭）の花火大会」を挙げると、同学年で学友会に所属していた高田和明さんもすかさず会話に加わり、「たくさんの生徒と先生たちが協力して2時間かけて準備して、花火はたったの5分程度。でも、あの感動は忘れられません」という2人の会話から、協力して一つのことをやり遂げた感動が伝わってきました。

「男子校の魅力」については、「遠慮がいらぬ」「多様性があ

る」という回答。「いい意味で無関心。休み時間も、外でサッカーしている子もいれば、教室でゲームをしている子、勉強している子もいて、みんな気ままに過ごしています」と言えば、「誰かがやっていることに対して否定的なことは言わない」「好きなことができ、誰にでも居場所がある」。「でも、体育祭などの行事では、体育系、文化系関係なくクラス一丸となれる」と、実際に過ごしたからこそその意見が出ていました。だからこそ、「高校から入学した子と中学からの子と仲良くなれるか」という質問にも「入学直後は意識したけど5月ぐらいには、なじんでまったく気にならなくなっていた」と受験生を安心させていました。

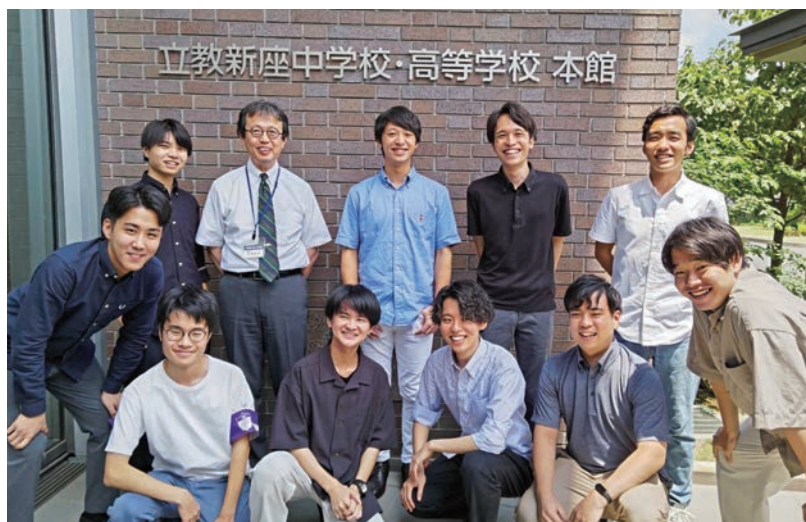
立教新座に入学するまでの話から、中学・高校生活、卒業後のエピソードまで、幅広い内容が語られ説明会は終了。5限目に別会場に設置された「卒業生による個別質問コーナー」では、より詳しく話を聞きたいという小・中学生や保護者たちからの質問に答えていました。





STAFF

「卒業生による学校説明会」スタッフ



[前列左から]

金堀 賢 さん (2018年度卒)
 外山 翔大 さん (高1/映画研究会)
 山田 瑛瑠 さん (2020年度卒)
 飯田 真大 さん (2021年度卒)
 石井 洋充 さん (2012年度卒)
 中山 昂大 さん (2019年度卒)

[後列左から]

村上 隆太 さん (2018年度卒)
 中間 和洋 (社会科教諭)
 小川 嶺 さん (2015年度卒)
 高田 和明 さん (2013年度卒)
 伊藤 太一 さん (2013年度卒)

OBインタビュー

小川嶺さんインタビュー



石井洋充さん、高田和明さん、飯田真大さんインタビュー



REPORT

2023年度 立教新座オープンキャンパス 開催概要

開催日時 2023年7月17日(月・祝) 10:00~15:30

開催内容 学校説明会プログラム【中学校学校説明会／高校学校説明会／卒業生による学校説明会】
 体験授業【23講座39コマ】
 クラブ体験
 発表・展示・個別質問コーナー

参加者数 約2,100人



学校説明会(中学)



学校説明会(高校)



クラブ体験(陸上競技部)



体験授業(中学)



体験授業(高校)



展示

BE A GLOBAL LEADER

2023年度 海外研修

2023年度は、新型コロナウイルス禍で中断していた海外研修を再開し、夏季休業期間中に「アメリカ・サマーキャンプ」「英国サマースクール」を4年ぶりに、また新しく国内での語学研修「ブリティッシュヒルズ研修旅行」を実施しました。冬季、春季休業期間中には、理科および宗教科が企画する海外研修やギャップイヤー留学も予定されています。

アメリカ・サマーキャンプ

実施期間	2023年8月3日～14日(12日間)		
行き先	アメリカ(サンフランシスコ/ジュリアン/ロサンゼルス)		
対象	中学2年生・3年生	参加人数	18人

カリフォルニア州ジュリアンのキャンプ・スティーブンスで約1週間、現地のキャンパーたちと共にアウトドア活動をして過ごすほか、サンフランシスコとロサンゼルスでの自主研修を行いました。

参加した生徒の
インタビュー記事
はこちら▶



英国サマースクール

実施期間	2023年8月3日～19日(17日間)		
行き先	イギリス(チェルトナム/ロンドン)		
対象	高校1～3年生	参加人数	20人

イギリス・チェルトナムでホームステイをしながら現地の語学学校で英語研修を受けるプログラム。世界各地から来ている学生たちと共に学ぶ英語授業やアクティビティを通して英語力を向上させました。



ブリティッシュヒルズ研修旅行

実施期間	2023年7月23日～24日(2日間)		
行き先	福島県 British Hills		
対象	中学1～3年生、高校1～3年生	参加人数	40人

建物やインテリアなど中世英国を再現した施設・ブリティッシュヒルズで過ごす2日間の使用言語は英語のみ。料理やスポーツ、科学実験などを通して、楽しみながら英語と英国文化を学びました。



今年度予定している海外研修

理科 オーロラ観測

- 実施期間:2023年12月21日～28日(8日間) ●行き先:フィンランド(ロバニエミ)
- 対象:高校1～3年生 ●参加人数:約30人

フィンランド・ロバニエミでのオーロラ観測や現地科学センターの見学、事前事後学習を通して、科学とテクノロジーを学びます。



事前学習ではフィンランドの文化等を各班ごとに調べて発表

宗教科 ポーランドの過去・現在・未来を巡る旅

- 実施期間:2024年3月22日～30日(9日間) ●行き先:ポーランド(ワルシャワ/クラクフ)
- 対象:高校1～2年生 ●参加人数:約20人

ワルシャワ、クラクフ、アウシュヴィッツの世界遺産を訪れるほか、現地学生とのワークショップやフィールドワーク、事前事後学習を行います。



事前学習でのグループワークの様子

ギャップイヤー留学

- 実施期間:2024年2月～3月(約1カ月) ●行き先:アメリカ ●対象:高校3年生 ●参加人数:約20人

高校3年生の進路決定後、留学ビザを取得してアメリカの語学学校で実践的な英語を学びます。

NHKのアナウンサーを経て研究員に。 調査研究を通して災害時の犠牲者ゼロへ

立教大学を卒業後、日本放送協会(NHK)でアナウンサーを務め、現在、NHK放送文化研究所の研究員として調査研究にも携わる中山準之助さん。「立教じゃなかったら今の自分はありません」という中山さんが、立教中・高・大学の10年間で振り返り、後輩のみなさんや、受験生にメッセージを送ります。



1999年度卒業生

中山 準之助 さん

Junnosuke Nakayama

| Profile |

1997年3月 立教中学校卒業
2000年3月 立教高等学校卒業
2004年3月 立教大学社会学部卒業
2004年4月 日本放送協会(NHK)に入室
2018年より、NHK放送文化研究所 世論調査部

ライブートで何度も訪れたことがあり、身近な場所でも多くの人命が失われたことに大きなショックを受けました。それでもアナウンサーとして、被災地や避難所でカメラを回し、インタビューをしなければなりません。凄惨な現実を目の当たりにし、喪失感と同時に報道の限界を痛感するあまりにも大きな出来事であり、アナウンサー、そして報道に関わる人間として、自分に何ができるのか、ということ自身に問い続けるきっかけとなりました。



岩手県内の夜のニュース番組にて

現在所属するNHK放送文化研究所では主にさまざまな世論調査を行い、そのデータを分析・研究し発表しています。特に私は災害に関する調査を継続していて、たとえば、「効果的な避難を促す呼びかけは何か」の調査は、そこから明らかになったことが災害発生時の報道現場の対応の参考としても活用されています。今後も、自治体などさまざまな方面と協力しながら課題をクリアし、調査研究も重ねて災害・防災対策を突き詰め、災害時の犠牲者ゼロを目指していきたいです。

OB講話会での生徒の真剣な姿勢に驚き

私は中学受験で立教中学校に入学し、高校、立教大学へと進学したので、立教には10年分の思い出があります。その経験が皆さんのお役に立てばと、2022年と2023年、立教新座高校の1年生を対象とする「OB講話会」^{*}に登壇させていただきました。その時に驚いたのは、皆さんが真剣に私の話を聞いてくれること。高校1年生の頃から将来について考える生徒さんが多いと感じました。

私が高校生の頃は、OBの方との接点がありませんでした。今はそのような機会があるのがうらやましいです。というのも、私は大学の学部選びに本当に迷って、「誰かに話を聞いてもらえないか」と、最終的に校長先生に相談に行きましたから(笑)。そこで的確なアドバイスをいただきましたが、OBの皆さんのお話も聞いてみたかったです。



OB講話会

アナウンサー時代、 東日本大震災で価値観に変化が

大学時代に世界を旅し、インターンも経験し、世界は広いということ、自分は表面的なことしか見ていないことに気づきました。そこで就職活動では、業種を絞らず100社ぐらいにアプローチしたのですが、どこも魅力的で、「表に出ていない仕事がたくさんある。むしろそういったことに支えられている」と感じました。それを発信できるのはマスコミで、なかでもNHKのアナウンサーは自身で取材まで行うので、がんばっていたり輝いていたりする人や仕事を掘り起こし、スポットを当てられると考え志望しました。

NHK入局後、札幌放送局を経て、盛岡放送局5年目の2011年に東日本大震災が発生しました。被害の大きかった沿岸地域へは、震災前に取材やブ

挑戦し続け、前向きに生きる心の土台は 立教時代に作られた

立教高校の良さを振り返ると、高校3年で履修する自由選択科目のことを思い出します。まず、「絵から見る中世」をテーマとした授業では、絵を通じて当時の人々の生活を理解したり、史実とされていることが違っている可能性を教えられました。歴史を多角的に、時には批判的に学ぶ姿勢は、世の中を捉えるマスコミの姿勢にも生きているように思います。

もう1つ挙げると、イタリア語とスペイン語も印象に残っています。言語への興味、関心、外国への思いなどを大きく広げることにつながりました。海外に目を向けて言うと、特に欧米諸国関連の仕事では、キリスト教に詳しいことが強みになりますし、中東の理解にも役立ちます。私はクリスチャンではありませんが、6年間で聖書をしっかり学べて良かったと思います。

そして何より、大人になっても挑戦し続け、前向きに生きる心の土台ができたのは、立教での学校生活があったからこそです。部活で陸上競技に打ち込んだ日々の思い出や、卒業してからも続く同級生や先生とのつながり。目の前のことに一生懸命取り組んでいける環境がありました。その時は何の役に立つのかわからなくても、ムダなことは一つもありません。真剣に向き合った経験は、後になって必ず生きてきます。みなさんも、小さなことからでも挑戦を続けてください。応援しています！

(取材:2023年9月)

^{*}OB講話会... 立教新座中高の卒業生約15人を招き、高校1年生に向けて大学進学やその後のキャリアについてお話しいただく会。生徒は1日で2人のOBの話聞き、その後の時間で聞いた話の内容をクラスで発表するリーダーシップ・プログラム。

< 公式 Web サイト・SNS について >

本誌の内容は、本校 Web サイトや SNS でもご覧いただけます。また、Web サイトや SNS では、本校での出来事など、日々の学校生活の様子が垣間見られるような情報や写真を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



Webサイト



Facebook



Instagram



LINE



note

※在校生への緊急時のお知らせは「立教新座配信メール」で確認してください。

CAMPUS NEWS RIKKYO NIIZA

キャンパスニュース 立教新座

2023年11月6日発行 第88号
発行/立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課
〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25
TEL.048-471-6648 [入試窓口]
<https://niiza.rikkyo.ac.jp/>